

第4回目【点眼】



愛犬・猫への点眼は、お互い向き合って（真正面）の点眼では嫌がったり恐怖心を与えてしまうことがあります。

基本の点眼方法を参考にして、お互いが安全でやりやすい点眼方法を見つけてください。

点眼方法

点眼前

- ・手をよく洗い薬剤の間違いないか確認します
- ・振ってから使う眼薬か確認をします
- ・冷蔵保存のものはすぐに点眼をすると冷たくて嫌がる場合があるので手で温めてから点眼するのも良いです

点眼液

- ① 動物の背後にまわり、動物の顎を少し上に持ち上げる
- ② 点眼薬を持つ手を動物の頭の上に後頭部の方からさせて、眼の表面に1滴点眼する



※点眼液の汚染を防ぐために、先端を手で触れたり、まつげや被毛・皮膚・眼の表面などに触れないようにしましょう※

点眼後

- ・可能であれば涙嚢部（めがしろの付近）をしばらく圧迫します
点眼液の排出を抑えて全身的に吸収されるのを減らす事ができます
- ・目の周りにあふれた点眼液を適宜拭き取る
眼瞼炎を予防します

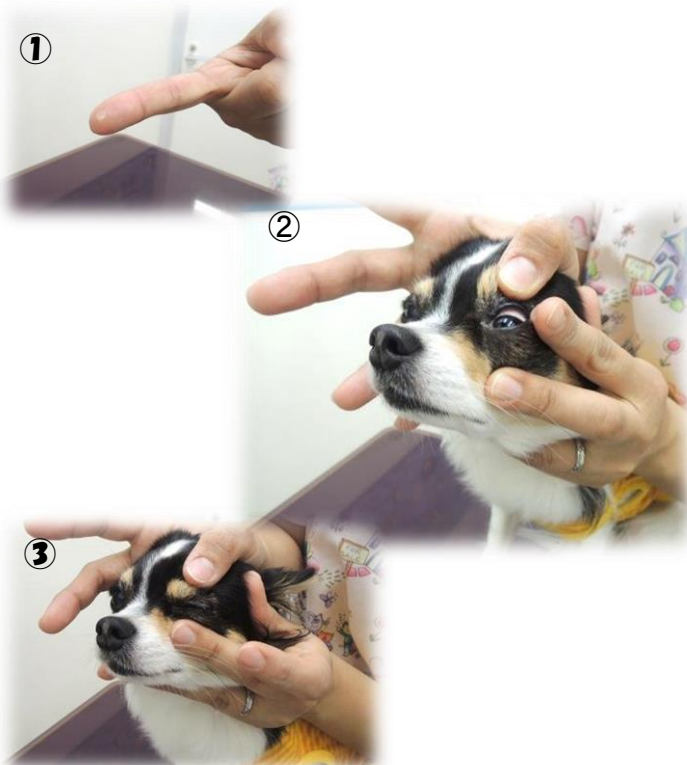
軟膏

1、指にのせて

- ① 指の腹に薬剤をのせる
- ② まぶたをめくり軟膏を入れる
(下まぶたでもOK)
- ③ まぶたを指で開閉させて、軟膏をなじませる

2、チューブから直接

- ① 直接目の表面に軟膏をのせる
(容器の先端が眼に触れない、
先端で怪我をさせないように気を付ける)
- ② まぶたを指で開閉させて、軟膏をなじませる



重要!

点眼間隔

- ・複数の点眼薬がある場合
それぞれの点眼薬は5分以上間隔をあけてください

点眼ルール

- ・より効果を期待する点眼薬をあとにしてください
- ・水溶性より懸濁性、高粘調性点眼を
あとにしてください
- ・点眼剤より眼軟膏をあとにしてください